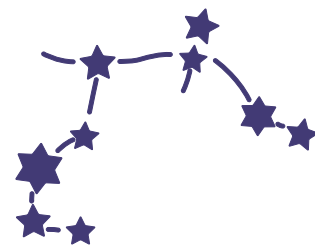


京都産業大学 神山天文台



第4回天文台講座

「近赤外線の“目”で宇宙を見る」

講師： 吉川 智裕（神山天文台 専門員）

古来から、人類は目に見える光で宇宙を観察してきました。しかし、目で見えている光は、天体からやってくる情報のほんの一部だけです。天体からの情報は、様々な波長の電磁波の形で私たちの元に届き、目に見える光はその一部の波長に過ぎないのです。そこで、現代の天文学者は、目に見える光以外にも様々な波長の見えない光で宇宙を見ています。

今回は、目で見える光より少し波長が長い近赤外線で見える昔の宇宙の姿のお話をしたいと思います。この10年くらいの間に、世界中の大きな望遠鏡には近赤外線で見える昔の宇宙を調べるための観測装置が増えてきました。どうして近赤外線なのでしょう？目に見えない近赤外線を「見る」簡単な実験を交えつつ、最近の観測的な研究による宇宙の歴史のお話をしたいと思います。

平成23年3月5日（土）16時～17時30分

京都産業大学 神山天文台

天文台講座について：

神山天文台では、普段の天体観望会よりも天文学の深い話題に触れていただけるような内容をご用意して、季節ごとに年4回の天文台講座を開催しています。神山天文台の研究・教育スタッフが各自の専門分野の話題を中心に、神山天文台で行われている天文学の研究や観測技術の研究・開発について講演や実験を行います。地域の方々が天文台の研究者と気軽に交流していただける場にしていきたいと考えております。

定員：70名、参加費：無料

事前申込制：本学web、往復はがき、又は
神山天文台へ直接お申込みください。

対象：小学生以上

お問い合わせ： 京都産業大学神山天文台

電話075-705-3001

後援：京都市教育委員会



近赤外線で見た宇宙の深撮像画像
一つ一つの点が銀河

（提供・MOIRCS Deep Surveyチーム）